

じやりみち

…仮設支援情報…



【第1面】

第5号 発行日 1995. 10.26

阪神大震災地元NGO救援連絡会議

仮設住宅支援連絡会

TEL: 078-362-5951 / FAX: 078-362-5957

E-mail: ngoteam@mb.osaka.inetweb.or.jp

口座番号: 01180-6-68556 (郵便振替)

♡全体会のお知らせ♡

次回全体会は、日時：11月1日（水）18時～20時

場所：毎日新聞ビル3F第一ホール（NGO連絡会議の隣の部屋）

全体会の前には「学習会」がありますので（下記参照）あわせてご参加ください

※※学習会『かせつ寺小屋』のお知らせ※※

学習会『かせつ寺小屋』を開講します。多くの皆様の参加を望みます。

第一回目のテーマは「自立支援」。震災から9カ月、緊急救命の時を終え仮設住宅という仮の暮らしに移った被災者たちは、以前の暮らしを取り戻す為、'自立'の道を歩む為、心の準備を始めたように思います。私達は、被災者と共に'生'を求め、救援活動が続けてくる中で、多くのことを学ぼうとしています。そして、今、被災者の自立をサポートする為に私達は何を考え、何をすべきなのかを、しっかりと学習する必要があります。私達自身が、被災者と共に生き、共に日常弱者といわれる高齢者・障害者・難病者・外国人・女性・子供が安心して暮らせる街づくりを創っていかなくてはいけません。皆さん、どうぞ『かせつ寺小屋』に参加してください。

（仮設住宅支援連絡会代表：村井 雅清）

第一回学習会『かせつ寺小屋』

テーマ：「自立支援」について

講師：朝日新聞編集委員 秦 洋一 氏

日時：11月1日（水）16:00～18:00（全体会の前）

場所：NGO連絡会議事務局隣 第一ホール

==== 前回全体会の報告 ====

前回の全体会（10月18日）では、これから冬を向かえるにあたっての課題が議題の中心となりました。

いろいろと出された意見の中で、防火・すきま風対策等については被災者復興支援会議に問い合わせ中です。

また、対外的にアピールをしていくための事業概要の検討もされました。

次回全体会はこれらをふまえ、島原でボランティアをしている正村氏に冬対策のミニレクチャーをしていただく予定です。

★仮設支援キャラバン in 西神中央★

キャラバンとしては初めて仮設でイベントを行いました。場所は西神中央仮設住宅。ちびくろ救援ぐるうぶがイベントの大部分をして下さったので、我々仮設住宅支援連絡会・仮設支援キャラバン隊（隆太・光）は、イベント運営のサポートをさせて頂きました。また、倉敷から来た児島中学校2年3組の生徒のみなさんがイベントに参加してくれたので、たいへん賑やかなものになりました。

イベントの内容は、バザー・炊き出し・お茶会をちびくろさんが用意してくれました。炊き出しは、おでんをイベントの3日前から準備をしていただいたので、とても美味しいものができあがり、住民の方々もたいへん喜んでおられました。（ちびくろのみなさん、本当にご苦労さまでした。ありがとうございます。）

バザーは、食器類と古着。食器類は、出してから一時間ほどでほとんど無くなりました。古着に関しては、半分出たか、出ないか程度でした。やはりハンガーに掛けてやった方が、みなさん持っていられるような気がします。

お茶会は、中学生が自分達でつくって持ってきたスイートポテトとマシュマロを出して、住民のみなさんに食べてもらいました。みなさん非常に喜んでおられました。

仮設支援キャラバン独自の動きとしては、中学生のみなさんに協力をして頂いて、住民のみなさんから「生の声」という、住民の声を聞かせて頂きました。それを集約して、全国キャラバンで、ひとつのコーナーを設けてもらって全国にアピールできればと考えております。

今後、姫路・星和台・新多聞でも予定していますので、その都度報告させていただきます。

次回の仮設キャラバンは、11月5日：姫路・玉手仮設に行きます。詳しいことは、事務局・鈴木まで。

<隆太>

情報コーナー

○炊飯器貸します

二升炊きの炊飯器2台、無料で貸します。

問い合わせ：ゆいまある神戸・石井

TEL/FAX 078-791-4829（17：00以降）

○黄色いハンカチ作りませんか？

仮設住宅での安否確認のための「黄色いハンカチ」用の黄色の布を、旭化成より大量にいただきました。ご希望の団体は連絡下さい。

問い合わせ：ゆいまある神戸・石井

TEL/FAX 078-791-4829（17：00以降）

○”ポッチ”のお知らせ

神戸復興のため、仕事の無い被災者に方に少しでも収入が得られるよう、ケミカルのハギレで”ポッチ”（三角形の可愛い小銭・小物入れ）を作っています。

数はたくさんあります。1ヶ600円

問い合わせ：関西復興へ行動する市民の会

「そして神戸」TEL 078-221-3035（金田）

EVENT 情報♪♪

★週末ボランティア募集

堂谷第2の仮設訪問します。

日時：10月28日、11月4日13時～17時半

どちらも地下鉄西神南駅13時集合

問い合わせ：週末ボラ795-6499（東條）

< 仮設は今... >

◆ 全国仮設放浪記 ◆

“島原アウトサイド”の正村圭史朗さん(27)をご存じですか？島原でのボランティア活動を続けながら、日本各地の災害地を廻り(ヒッチハイクで)情報を集めている方です。今号から、数回にわたる正村さんの連載が始まります。



4年前の雲仙普賢岳火山災害でのボランティア経験のある自分にとっては、阪神・淡路大震災の被災地で活動している皆さんに会うと、ふと懐かしさを感じてしまうことがある。現在も継続している自分の島原での活動経験や、日本各地の災害地を訪ね、各地がどの様に災害を受けたか、そして、それを如何に克服してきたかを調べるのが、神戸や今後の災害地に活かせるのではないかと考え、今夏、北海道南西沖地震の被災地・奥尻、日本海中部沖地震の被災地・秋田県能代市、昨年末の三陸はるか沖地震の八戸市、宮城県沖地震の被災地等を訪問してきた。今回「じゃりみち」の協力を得て場をお借りし、各災害地での仮設住宅について、検証してゆきたいと思う。まず第一に、災害救助法等に於いて「仮設住宅」は、“災害のため、住居が全半壊(半壊)した被災者のうち、自らの資力で住宅を確保又は修理できない者に対し、一時的な居住の安定を図る事を目的”とされている。規定の中に、「仮設住宅の建設戸数の目安は、全壊流失戸数の三割以内」という現行基準がある。過去の災害時は、この基準に基づき仮設が建設されたが、昭和34年の伊勢湾台風の風水害では、特別にこの規定を四割に引き上げ、全壊流失戸数8300戸のうち3000戸の仮設が建設された。他をみると、昭和35年のチリ地震津波災害では、三陸地方で全壊流失戸数942戸に対し271戸、昭和58年日本海中部地震では能代市では719戸に対し40戸だけであった。その後の幾つかの風水害では、既存の公営住宅でまかなえる数だった。「仮設住宅」が、注目されたのは、平成3年の普賢岳火災災害であろう。この時は、全壊流失家屋だけでなく、法律で設定された立ち入り禁止区域に住居のある避難者に、特別措置として全員が仮設住宅に入れることとなった。その後の奥尻、今回の阪神・淡路大震災も、この島原の特別措置に従う形となっている。このことから一度導入された特別措置が、その後に繋がっていく事が判る。戸数と同じ様に間取り等も変化してしてきた。伊勢湾台風やチリ地震津波災害では、五坪と0.25坪のトイレであったが、その後の新潟地震や宮城県沖地震等からは約七坪の2DKとなっていった。今回は、仮設住宅の冬対策について考えてみよう。

◇ 灘区編 ◇

灘区の一般仮設住宅は計10カ所で550戸足らず、又2階建て仮設共同住宅は計450戸位で、合計千戸を切る数です。特に灘南と西灘の一般仮設住宅は震災後いち早く、2月末に入居できました。でもわずか200戸余りですから、その頃まだ避難所での20万近い被災者の方々にとっては焼け石に水でした。当たった方も人目をしのいで引っ越しをされたそうです。

そして当初は特に高齢者・障害者の方、母子家庭優先でしたので、灘南仮設では一人暮らしが4分の1強、60歳以上は半数を超えています。買い物ひとつに困ったり、炊事も思うにまかせずボランティアで引っ越しの片づけや炊事の手伝いがいました。

じゃり道は言うまでもありません。石をけけると今度は水がたまるから困ると言われます。何故真ん中だけでもアスファルトで覆ってくれないのかしらと思ひやりのなさに腹がたちます。弱い者の身になって考えることができなくて、行政もボランティアも一体誰のためのものかということに改めて考えさせられてしまいます。私たちボランティアの種蒔き隊が種や苗を植えても、外に水道栓が設置されていないので水やりもままならず、残念な思いを沢山しました。花いっぱいにして、心のうるおいのお手伝いもしたいと思うのです。そんなボランティアの小さな願いにも行政が耳を貸していただけたらと思われまます。

灘南仮設住宅では7月すぐに集会用のテントを建てて自治会結成の集まりをしました。私たちのボランティアに仮設のシルバーの方が大工隊に参加してくださっているので支援もスムーズにすすみ、9月末には灘区で最初のふれあいセンターの開会式ができました。そのときは、近隣の仮設の方々も来られて、住民の方の詩吟や手品やピアノエイドで設置したピアノで皆が歌も歌ってほのぼのとした楽しい会ができました。参加者も80人位でセンターがいっぱいでした。現在もボランティアから呼びかけて、隣の仮設の方々もワゴンで迎えにいき、お茶会をしておしゃべりしたり、童謡を歌ったりして活用しています。休日には紙芝居集団の方々にも来ていただき、あとカラオケも自治会主催でしました。今後趣味の講座を開こうとアンケートをとっているところです。又今後はふれあいセンターとして、救援物資を近隣の各仮設に配分できる基地にできたらと前回の運営委員会で決まりました。西灘仮設も自治会ができています。又王子公園も住民の方々に要請されて私たちボランティアで集会用のテントを建てました。又ふれあいお茶会やバザーや大工隊の工作にも使用させていただく予定です。自治会づくりのプログラムも住民の方々と一緒に既にできています。何とか一日でも早く住民の方々が生活と住まいのそして気持ちの立て直しをなさいますよう、私たちボランティアもできるだけお役に立ちたいと思って活動を行っています。

灘地域助けあい” ひまわりネットワーク”

池邊幸恵

各団体からの報告

仮設住宅に方に配るようと、長野からリンゴトラック一台、ソニー生命からお花の鉢植えが、ちびくろ救援くるうぶに、届けられました。ボランティアも仮設の方も大喜びです。こういったまとまった差し入れの情報がありましたら、仮設住宅支援連絡会までご連絡くだされば、とってもウレシイです！



事務局かめ

* 仮設住宅支援連絡会専用の

郵便振替口座が出来ました。

口座番号：01180-6-68556

加入者名：仮設住宅支援連絡会

カンパ・アピール、よろしくお願ひ致します。

* 10月4日の懇親会でモスグリーンの傘の忘れ物がありました。

お心当たりの方は事務局までご連絡下さい。